

龍谷大学図書館長 殿

所属・職名 経営学部准教授
氏名 竹内 綱史2020年度 大型図書 研究成果（経過）報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

購入資料名 Collection of Arthur Schopenhauer	採択年度 2020年度
<p>1. 研究の概要について</p> <p>私はショーペンハウアーの哲学および、彼の影響を大きく受けたフリードリヒ・ニーチェの哲学を主に研究しており、本コレクションはその基礎資料となっている。現在、以下の三つの研究費をいただきながら、それぞれ研究を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none">・「19世紀ドイツのペシミズム論争をめぐって——ニーチェを中心に」龍谷大学国際社会文化研究所共同研究（2020-2022年度、研究代表者：竹内綱史）・「1870年代ニーチェ哲学における自然理解の再検討——統一的なニーチェ解釈を求めて」JSPS科研費 基盤研究（C）（2022-2025年度、研究代表者：竹内綱史）・「「共感の時代」におけるショーペンハウアーとニーチェ——同情／共苦論の再検討」JSPS科研費 基盤研究（C）（2022-2024年度、研究代表者：齋藤智志）	
<p>2. 購入資料の活用状況（活用予定を含む）について記入してください。</p> <p>本コレクションに含まれている、Shopenhauer-Jahrbuch（100年を超える歴史を持つ国際ショーペンハウアー協会の機関誌）のバックナンバーは、ショーペンハウアー研究のこれまでの蓄積と広がりを知るうえで、大変役に立っている。</p> <p>また、ショーペンハウアーの全集も何種類か含まれているが、ショーペンハウアーの本は改訂・増補が繰り返されたものが多く、テキスト校訂に疑義が生じることも多々あるので、各全集のテキストを比較検討できることは、研究を進めるうえで有益である。</p> <p>それ以外にも、日本では手に入りにくい昔の研究文献なども多く含まれており、今後研究を深めていくにあたって、参考になるだろう。</p>	

3. 研究発表状況（予定を含む）について記入してください。

【雑誌論文】

・竹内綱史「意味ある人生とは必然的に不道德なのではないか？——ニーチェとショーペンハウアーから」、九州大学哲学会編『哲学論文集』第57輯、2021年、77-103頁。

・竹内綱史「生のトータルな肯定は可能か ——ショーペンハウアーとニーチェから」、親鸞仏教センター編『現代と親鸞』第45号、2021年、233-252頁。

・竹内綱史「ニーチェにおける自然主義と率先垂範の倫理」、大阪大学大学院文学研究科哲学講座編『メタフュシカ』第52号、2021年、23-33頁。

【図書】

・Yoichiro Takahashi, Takao Ito und Tsunafumi Takeuchi (hrsg.), *Das neue Jahrhundert Schopenhauers. Das Internationale Forschungsprojekt anlässlich 200. Jubiläum von Die Welt als Wille und Vorstellung*, Königshausen & Neumann, 2022 (近刊)

【学会発表】

・竹内綱史（実施責任者）、公募ワークショップ「ニーチェと正義 ——ニーチェによる道徳批判の射程」、関西倫理学会第74回大会、2021年10月29日

☆資料購入後、**1年以内に研究経過報告書**を提出し、また、**3年以内に研究成果報告書**を提出してください。
加えて著書または学術雑誌等により**研究成果の公表または学会発表**をしてください。
☆公表の際には、参考文献として刊行物に明記してください。